

白神山地は金山萌えていた

大賀 二郎*

Full of young leaves in Shirakami mountains

Jiro OOGA

はじめに

3月11日の東日本大震災で東北の自然林の被害はどうだったのだろう。白神山地については、南部の杉の人工林以外影響は全くなかったようである。

盛夏、私は同時期に白神山地に入った。2011年8月8日であった。大震災の山のようにすを記録する。白神山地は森林生態系保護地域で世界遺産に登録されている。入山には森林管理局の許可とレンジャーの案内が必要である。山中には、いろいろなトレッキングコースがあるが、私はブナ林散策道コースと暗門の滝の渓谷コースを選択した。西目屋アクアグリーンセンターが出発地点である。主峰岩木山(写真1)を遠くに見て出発。岩木川の源流金山沢・暗門沢を辿り、片道2.8kmでも130分の行程がある。途中治水ダムがあり岩肌の露出した箇所があったが、レンジャーの説明では、地震ではなく集中豪雨の影響でそうだ。標高差500m。よく整備されているが、アプダウーンの多い林道である(写真2)。深緑のブナ林が萌えていた。山草は清楚な花をしっかりと付けていた。ここはニホンザルのほぼ北限地である。樹幹にツキノワグマが皮を食べた爪痕があったが、今は息をひそめていた。白神山地は静寂の音がする。その林道をひっそりと歩く。

林中の植物

出発地点から直ぐに溪流に沿う山道である。ブナの林になる。レンジャーの説明では、このあたりの山林は二次林で明治から戦時にかけて木炭を生産するため伐採した跡地であった。その後、ブナの親樹が落とした種子が発芽し、自然淘汰により適当な間隔で育った。天然更新で理想的な山林が構成された(写真3, 4)。ブナの寿命はほぼ150年あまり。その頃になると老木の倒壊が始まり、林中に太陽光線が届くようになり、新しい苗が育ち次世代に引き継がれていく。平地もあるがここでは大木に育っている。8月はすでに幼い実が付いていた。ブナ林のあたりはわずかであるがホオノキヤトチノキの大木もある。樹陰の傾斜地には、リョウメンシダ、イヌガンソク、クサソテツなどの大型羊

歯が繁茂していた。一時間程歩いて休憩。谷間の岩壁に湧水があった。水飲み場が据えてある。絶え間なく湧いている。天下の名水である(写真5)。このあたりではツリフネソウ、ダイモンジソウ、イワカガミなどが多い。樹陰のテラスのようなどころには、珍しくギンリョウソウの群落があった(写真6)。菌根植物である。ここから急な下りになる。眼下で本流の水音がする。大型のフキやヤグルマソウが旺盛である。渓谷の歩行は厳しい。大岩壁が突き立ち、巨岩の間を急流が縫う(写真7)。紺碧の澱みでイワナが光る。岩壁に架けられた歩道(写真8)。断層の裂け目もあった。クジャクシダがある。滝口を越えるのは滑って危ない。一の滝、二の滝、三の滝と番号が表示されている。最後の暗門の滝は壮観である。(写真9)。着いた。歓声を挙げたひとときである。

おわりに

大自然は、大震災のいささかの影響もなかったようだ。いつもと変わらずそこに在った。深緑のブナ林、アカゲラの樹幹を叩く音、清流にイワナの銀鱗。白神山地は、太古のままの静けさであった。

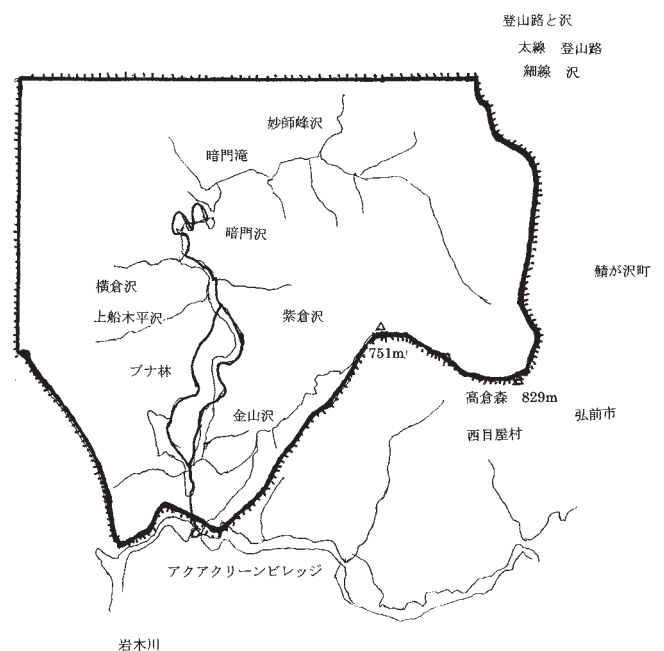


図1 白神山地森林生態系保護地域



写真1 主峰岩木山の遠望



写真4 ブナの自然林



写真2 観察しながら進む



写真5 天下の名水で小休止



写真3 整然と育ったブナの植林



写真6 ギンリョウソウの群落



写真8 溪谷に架けられた散策道



写真7 急流が巨岩縫う

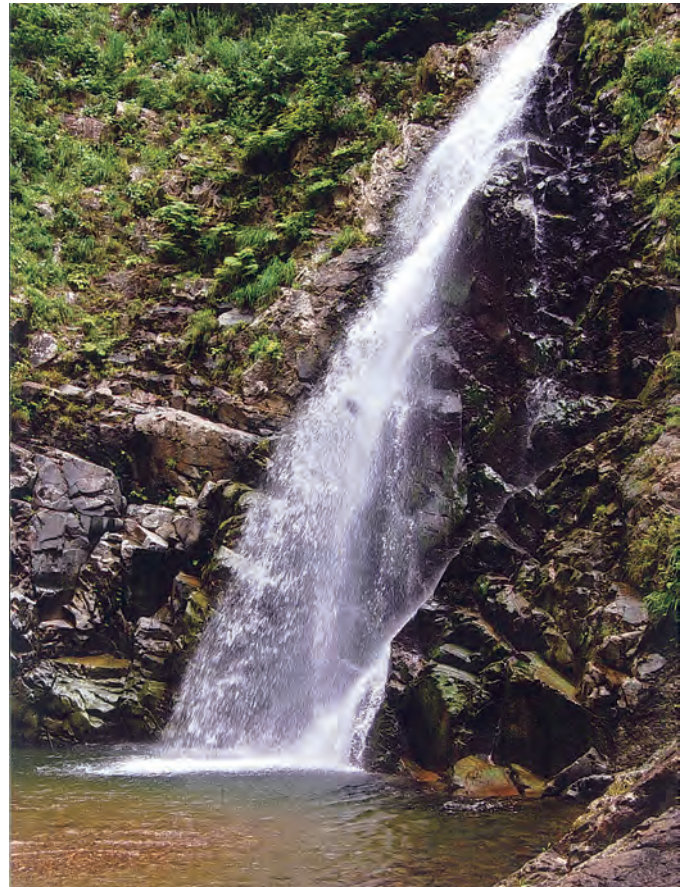


写真9 暗門の滝 この先は険しい登山路